

御製 五首

平成四年

戦没船員の碑

戦日^{いくさび}に逝きし船人を悼む碑の彼方に見ゆる海平らけし

理化学研究所

新たなる機器用ひつつ研究所に外国^{とつくにびと}人も交りいそしむ

第二十五回オリンピック競技大会

日本の選手の活躍見まほしく朝のニュースの画面に見入る

西安

いにしへの我が国人^{くにびと}の踏みし地を千年を越えて我ら訪^{おもな}ふ

上海

笑顔もて迎へられつつ上海の灯ともる街を車にて行く

第四十三回全国植樹祭

福岡県

夜須高原に苗植系にけり人々の訪ひて楽しむ森とならまし

第四十七回国民体育大会秋季大会

山形県

車椅子の人も交りて選手らの入場の様見るはうれしき

第十二回全国豊かな海づくり大会

千葉県

荒波の寄せ来る海に放たれしひらめはしばし漂ひ泳ぐ

皇后陛下御歌 三首

平成四年

初孫

春の光溢るる野辺の柔かき草生くさぶの上にみどりごを置く

桐の花

やがて国敗やぶるるを知らず疎開地に桐の筒花つつはなひろひるし日よ

交信

名を呼ぶはかくも優しき宇宙なるシャトルの人は地の人を呼ぶ